

## 火山調査委員会の活動状況

令和8年3月18日  
火山調査研究推進本部  
火山調査委員会

第4回政策委員会（令和7年8月8日）以降の火山調査委員会（委員長：清水洋 国立研究開発法人防災科学技術研究所巨大地変災害研究領域火山研究推進センター長／国立大学法人九州大学名誉教授）及び機動調査観測部会（部会長：森田裕一 国立研究開発法人防災科学技術研究所巨大地変災害研究領域火山防災研究部門特別研究員／国立大学法人東京大学名誉教授）の活動状況は以下のとおり。

### 1. 火山調査委員会及び機動調査観測部会の活動状況（表1）

令和7年9月26日に第6回火山調査委員会を書面開催し、令和7年度の噴火履歴・火山体構造等の基礎情報調査の実施計画について審議し、調査を実施するうえで考慮すべき事項について、委員から意見を聴取した。

令和7年10月10日に第7回火山調査委員会を開催し、我が国の111の活火山について、関係行政機関、研究開発法人、大学等の調査結果等を収集、整理、分析し、現状の評価を審議し、評価文を取りまとめた。また、現状の評価を踏まえ、最近1年間に噴火した火山や、火山活動に変化がみられ観測データや調査研究等の充実等の方策（調査研究方策）を検討すべき火山について、重点的に現状の評価を行うこととし、5つの火山（雌阿寒岳、霧島山、十和田、草津白根山、三宅島）を選定した。

令和8年2月24日に第8回火山調査委員会と第3回機動調査観測部会を合同で開催し、これら5つの火山について、各火山に詳しい専門家が中心となり、関係行政機関等のデータに加え、大学の研究成果や民間企業の調査結果等も分析し、評価文及び調査研究方策を取りまとめるとともに、それを踏まえた機動的な調査観測の実施計画を取りまとめた。

表1 火山調査委員会の開催状況

開催年月日	回	議 題
令和7年9月26日(金)	第6回	(1) 令和7年度の基礎情報調査の実施計画について
令和7年10月10日(金)	第7回	(1) 111の活火山の現状の評価について (2) 重点的に現状の評価を行う火山の選定について (3) その他
令和8年2月24日(火)	第8回 ※	(1) 重点的な現状の評価について (2) 機動的な調査観測の実施計画について (3) 最近の火山活動に関する関係機関からの報告 (4) その他

※第3回機動調査観測部会との合同開催

令和8年3月18日現在